

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和7年4月21日（月）～令和7年4月27日（日）〔令和7年第17週〕の感染症発生状況

第17週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1）感染性胃腸炎 2）A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3）水痘でした。

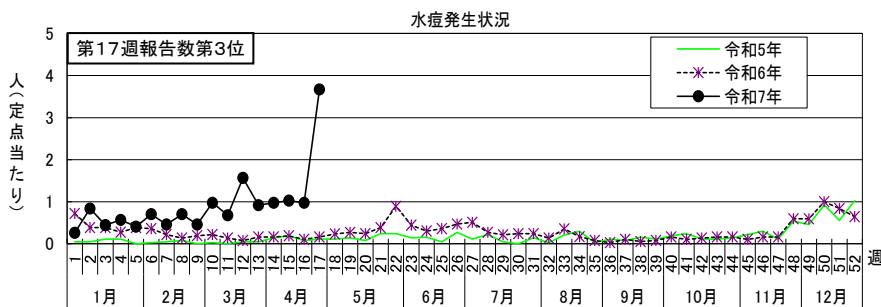
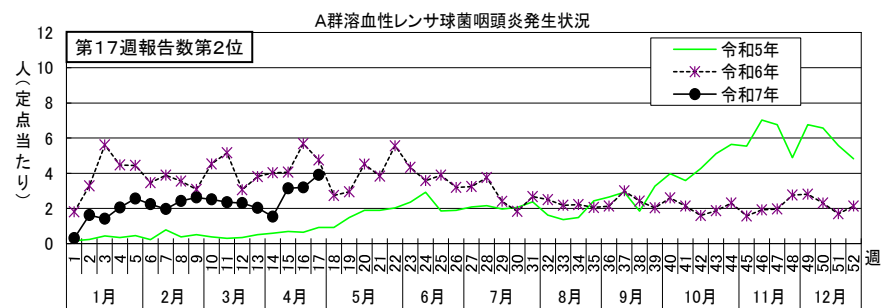
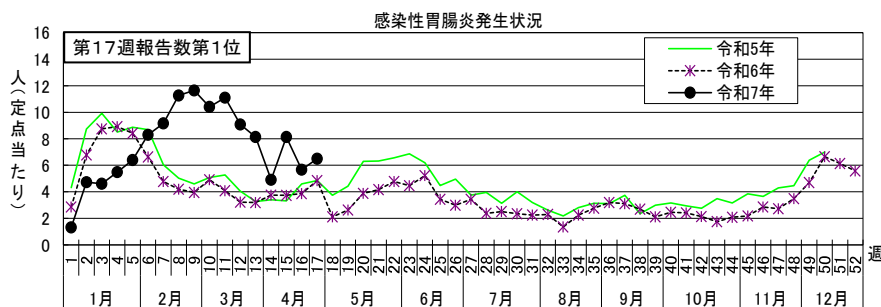
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.50人と前週（5.67人）から横ばいで、例年よりかなり高いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3.92人と前週（3.19人）から増加し、例年より高いレベルで推移しています。

水痘の定点当たり患者報告数は3.67人と前週（0.97人）から増加し、例年よりかなり高いレベルで推移しています。



STOP



水痘の流行発生警報が発令されました！

川崎市における令和7年第17週（4月21日～27日）の水痘の患者報告数は定点当たり3.67人と大幅に増加し、流行発生警報基準値（定点当たり2.00人）を超えました。区別では、多摩区が定点当たり12.40人と最も多く、次いで高津区が5.83人となっています。

水痘の予防にはワクチン接種が有効であり、国内では小児を対象とした定期接種が実施されています。十分な免疫を獲得するためには、2回の接種が必要ですので、期間内に忘れずに接種を受けましょう。

水痘とは？

【病原体】

水痘带状疱疹しんウイルス（VZV）

【感染経路】

空気感染、飛沫感染、接触感染

【潜伏期間】

2週間程度（10～21日）

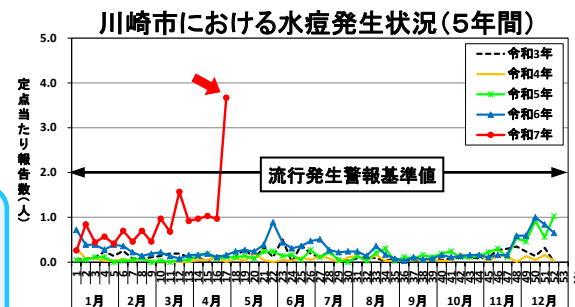
【症状】

発しん、38度前後の発熱、かゆみ等

【予防対策】

水痘ワクチンの接種

※1回の接種により重症の水痘をほぼ100%予防でき、2回の接種により軽症の水痘も含めてその発症を予防できると考えられています。



川崎市における水痘分布マップ（第17週）

川崎市感染症情報発信システム（KIDSS）

